今年度の取り組み

創造的に思考・判断するための支援

岡　﨑　典　子

１　創造的に思考・判断するための支援とは

図画工作科における「創造的に思考・判断する」とは、豊かに発想や構想をすることや、作品などからよさや美しさなどを感じ取ることである。

今年度は、仲間と試行錯誤を繰り返し、創造的に思考・判断する姿をめざしたい。子どもたちは、形や色、材料などにかかわりながら、造形的な活動を思い付いたり、表したいことを見付けたりしていく過程において、直感的に発想や構想を繰り返している。そこで、材料を操作したり見合ったりしながら仲間とかかわり合う過程を大切にしたい。なぜなら、形や色などの造形的な特徴を基に自分や仲間の考えを捉えることで、直感的だった発想や構想が自覚化され、自分のイメージが豊かになるからである。

このような学習を繰り返すことで、形や色、イメージなどの視点をもち、生活や社会と主体的に関わる態度や豊かな情操を養っていくことへつながると考える。

具体的には、以下の視点で支援を行っていく。

○材料の提示の工夫
○イメージと造形的な特徴とを関連付けて思考する場の設定
○活動の過程の振り返り

２　実践事例　　テープで大変身！！　（第５学年）

（１）授業の構想

①　本題材で求める子どもの姿

○　身近な場所の特徴から発想を広げ、前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かして、空間をつくり変えている（自己の発揮）

○　仲間と共に試行錯誤しながら、材料や場所などに進んでかかわり、それらを基に構成したり、周囲の様子を考え合わせたりしながら、空間をつくり変えている（かかわり）

○　活動の過程を振り返ったり、つくり変えた空間を鑑賞したりして、つくり変えた空間のよさや美しさを感じ取っている（心の幹）

②　本題材で求める子どもの姿を実現するために

ア　提示する材料の種類を少なくし、限られた材料（ポリエチレンテープ）を基に、材料の活用の仕方を話し合う場を設定する。そうすることで、材料からの発想を深められるようにする。

イ　場所の特徴や材料の活用の仕方について交流する場を設定し、形や色などの造形的な特徴を視点にして子どもの発言を板書する。そうすることで、イメージを共有し、イメージと造形的な特徴とを関連付けて思考することができるようにする。

ウ　毎時間の終末に、「気付いたこと」「楽しかったこと」を観点に振り返りを行う。そうすることで、造形遊びをとおした学びを自覚することができるようにする。

③　目標

○　身近な場所の特徴から発想を広げ、材料を活用し、周囲の様子と考え合わせながら、「見る人がいいなと思える空間」につくり変えることができるようにする。

○　場所の特徴や材料の活用の仕方について仲間と交流しながら、つくり出した空間のよさや美しさを感じることができるようにする。

（２）子どもの学びの実際　※波線は資質・能力が発揮された子どもの姿、下線は前述の支援との対応を表す

本実践は、「材料を基にした造形遊び」の題材であり、はじめから作品をつくることを目的とはせず、材料やその形や色などに働きかけることから始まる学習活動である。子どもたちは、仲間とかかわり合って小グループで活動していく。ここでは、階段を「見る人がいいなと思える空間」につくり変えようとしているM児とO児を中心に子どもの学びの姿を記す。

①　どの場所をつくり変えようかな［第１次第１時の学び］

指導計画（全3時間）

第1次　身近な場所を「見る人がいいなと思える空間」につくり変える

① 身近な場所の中から「見る人がいいなと思える空間」につくり変える場所を探し、試す

② 身近な場所を「見る人がいいなと思える空間」につくり変える

⇩

第2次　活動を振り返る

① つくり変えた空間のよさや美しさについて話し合う

第１時では、図工室の外に２階から数本垂らしてあるポリエチレンテープを見ながら、「もっと見た目が涼しく感じられるようにするためには、どうすればよいか」について話し合う場を設定した。その際、材料を１２色のポリエチレンテープ（以下テープ）のみに限定し、材料の活用の仕方について話し合う場を設定した。**【支援ア】**すると、「寒色のテープを使うと、涼しく感じるよ」と色の組合せの工夫について話す子どもや「絵の具を混ぜるみたいにテープを重ねると、色が変わるよ」と経験を基に話す子ども「テープを細かく裂くことで、もっと動きが出て涼しくなるのではないかな」とテープの活用の仕方について見通しをもつ子どももいた。**【自己の発揮】**このような子どもの発言を形や色などの造形的な特徴を視点に板書していった。**【支援イ】**すると、場所を探しながらテープを使って試してみる際、「垂らす」「裂く」「固定する」などのテープの活用の仕方を工夫したり、色の組合せにこだわったりするなど、造形的な特徴を基に仲間と試行錯誤する姿が見られた。**【かかわり】**

第１次第１時の板書

この時間の終末に、「気付いたこと」「楽しかったこと」を観点に振り返るように促した。**【支援ウ】**すると、O児は、「階段を見たときに、テープを使ってのれんみたいにすると、上から光がさしてきれいに光るかなと思った」と振り返っ

テープを使って試してみる子ども

ていた。**【心の幹】**これは、Ｏ児なりに材料と場所の特徴や日の光という自然環境とを考え合わせた気付きである。

②「見る人がいいなと思える空間」につくり変えよう［第１次第２時の学び］

本時のはじめに、前時で探した場所の特徴や材料の活用の仕方について交流する場を設定した。**【支援イ】**Ｍ児が、「涼しくするだけでなく、華やかにしたい」という思いをもっていることを前時の振り返りから見取っていたので、Ｍ児らがつくり変えようとしている階段の写真を黒板に貼り、Ｍ児にこの場所への思いを尋ねた。すると、Ｍ児は「この階段は薄暗く目立たない感じなので、華やかな感じにしたい」と場所の雰囲気を理由にして、つくり変えたいイメージについて話した。Ｍ児の話を聞いたＹ児は、「華やかにするのだったら、上にある柵から明るい色のテープを垂らしていくと華やかになる」と思い付き、写真に線をかきこんで全体に伝えた。**【かかわり】**このようにして、イメージを共有した上で、イメージと造形的な特徴とを関連付けて思考し、各々のグループが表したいことを見つめ直すように促した。

写真に線をかきこみイメージを伝えるＹ児

活動に入ると、子どもたちは、どのような空間につくり変えるかをあらためて考え、目的をもって取り組んでいた。

以下は、Ｕ児が、階段で活動しているＭ児とＯ児に、かかわっており、仲間と共に試行錯誤している様子である。

Ｍ児　同じ長さにテープを切ろう。
　　（Ｍ児とＯ児は、青、赤、緑、黄のテープをそろえて同じ長さで切っている）
Ｏ児　ここにしばるよ。
Ｍ児　金、銀のテープか。なんか楽しい雰囲気とはちょっと違うね。
Ｏ児　うん、なんかね。
Ｍ児　ピンクとオレンジ！
Ｏ児　それいい、新しい。明るい。**【かかわり】**
　　（色が重ならないように、色が似ているものは重なりがないように配置をしている。）
Ｕ児　ここさ、こうやってさ、しきつめようや。間が空いているから。**【かかわり】**
Ｍ児　確かにね。黄色と緑の間、空いているね。でも、やりすぎたら汚くなるんじゃない？**【かかわり】**

Ｕ児は、Ｍ児とＯ児のめざすイメージを共有できているからこそ、興味をもって立ち止まり、テープの間隔を見ながらアドバイスをしていた。その後、Ｍ児とＯ児は、長さだけでなく間隔を意識してテープを垂らすようになった。以下は、自分たちがつくり変えている空間を見直しながらつくっているＭ児とＯ児の様子である。

Ｍ児　（のれんのようにテープをかき分けて）ごめんくださぁい。
　　（風が吹いてきて）勝手になんかなびいている。
Ｍ児　色が重なっていないから、虹みたいに見える。でもさ、このままだと、あんまり虹に見えんかな？
Ｏ児　虹といえば虹だけど、色がつながってないね。**【自己の発揮】**

その後、２人は、より虹らしく見えるように色の順番を考えてテープを垂らしていた。このように、Ｍ児とＯ児は、互いにイメージを伝え合い、発想や構想を繰り返す中で、つくり変えた空間のよさや美しさを感じながら活動していた。**【心の幹】**

また、Ｕ児は、テープを中庭に張り巡らし、「見る人が楽しくなるアスレチック」の空間をつくっていた。何度も２階に上がって、上からテープの間隔を見ながらテープを張っていく様子が見られた。この時間の終末にも、「気付いたこと」「楽しかったこと」を観点に振り返りを行うよう促した。**【支援ウ】**すると、Ｕ児は、「Ｉ君とテープにテープを巻いて形を

つくった。上から見るとハンモックみたいだった。上から見たときと下から見たときの差があるのが面白い。」と、材料を操作したり見合ったりしながら仲間とかかわり合ったことを振り返り、見方を変えることのよさを感じていた。**【心の幹】**

③　つくり変えた空間のよさや美しさについて話し合おう［第２次の学び］

第２次では、自分たちのグループの空間をタブレット型端末で撮影するように促した。すると、子どもたちは、活動中と同様に、上から見たり下から見たりして画面に映しながら、「どのように見えるか」を楽しんでいた。「上から光がさしてきれいに光るか」を意識ながらつくっていたＯ児は、階段の上から見下ろした写真を撮り、「虹のシャワーみたい」とつぶやいていた。つくり変えた空間の見方を変えることで新たな発見をしたのである。**【心の幹】**また、つくり変えた空間に題名を付けて、その空間への思いを説明するように促した。以下は、M児の記述である。

上から見下ろした写真（Ｏ児撮影）

> わたしは、この学校の一つ一つの場所がわたしにとって、みんなにとって、すごく大切だと思っています。その中で、あまり見向きもされないこの階段を変身させました。Ｏさんと協力し、どうすれば意味のある空間にできるか、どうすればみんなに理解してもらえるかを考えました。階段の上からつるすテープの色を工夫すると、梅雨明けの虹みたいになってとてもきれいになりました。また、テープの間をせまくして「シャラシャラ」という音も出しました。この階段にはみんなを未来へみちびくきれいな虹があるという意味で、「未来への虹」にしました。**【心の幹】**

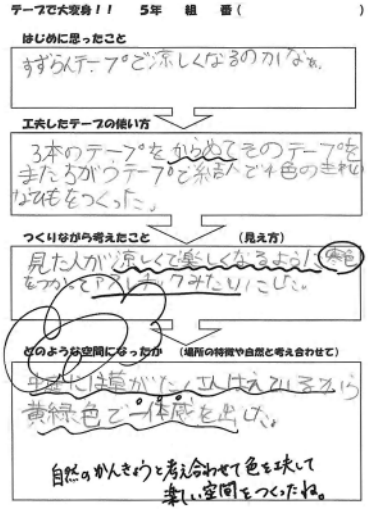
上から光がさす階段「未来への虹」

M児は、いつも通るこの階段を、見る人（みんな）を意識しながら、意味のある空間にしようとしていたのである。「華やかな感じにしたい」という思いから始まり、場所の特徴や材料の活用の仕方を仲間と交流することで、形や色などを基に、どうすればイメージを伝えることができるかを考えて、新たな空間につくり変えていったといえる。

３　実践を振り返って

今回、材料を操作したり、見合ったりしながら、仲間とかかわり合う過程を大切にした支援は、創造的に思考・判断していく上で有効であった。今後さらに、仲間同士でどのようなイメージを共有しているかを伝え合う場を工夫したい。そうすることで、一人ひとりの考えを具体的に把握して支援に生かすことができるからである。また、本題材の終末には、ワークシートで自らの学びの過程をたどることができるようにした。子ども自身が自らの発想や構想を自覚できるようにするためには、より具体的な観点を示して振り返りを行っていく必要がある。

以上のように、今後は、造形遊びのもつ教育的意義をより明確にし、子どもたちの資質・能力を育てる支援を工夫していきたい。



テープで大変身！！　5年　組　番（　　）

はじめに思ったこと

すずらんテープで涼しくなるのかなぁ。

工夫したテープの使い方

3本のテープをからめてそのテープをまた3がうテープで結んで4色のきれいなひもをつくった。

つくりながら考えたこと　（見え方）

見た人が涼しくて楽しくなるように色をかえてアンしゃックみたいにした。

どのような空間になったか　（場所の特徴や自然と考え合わせて）

中央に植物がたくさんはえているから黄緑色で体感を出した。

自然のかんさうと考え合わせて色を決めて楽しい空間をつくったね。

全体をとおした振り返りのワークシート